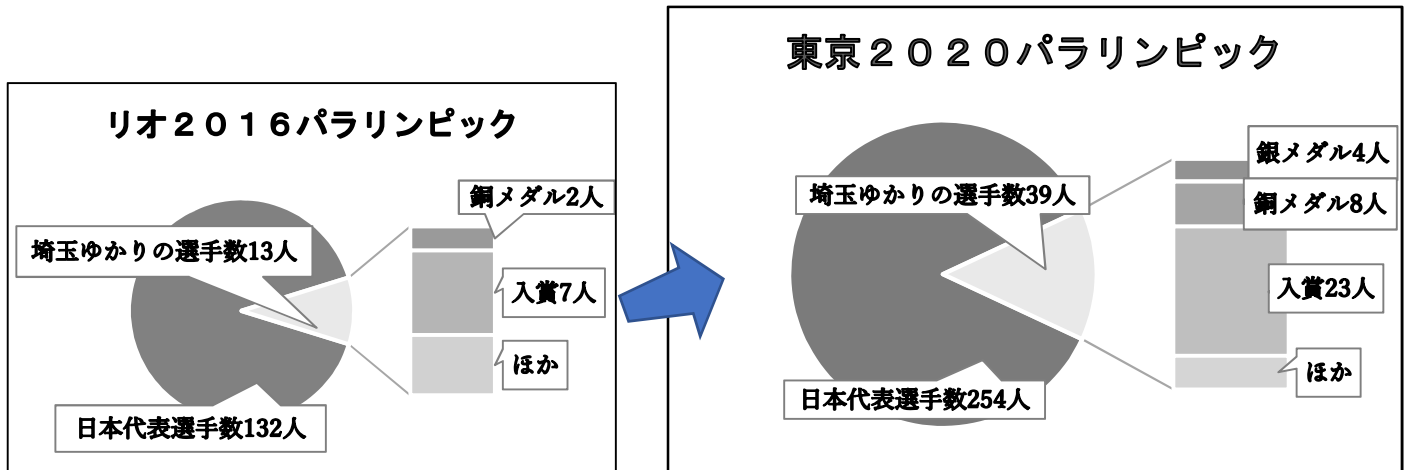


障害者スポーツの振興について

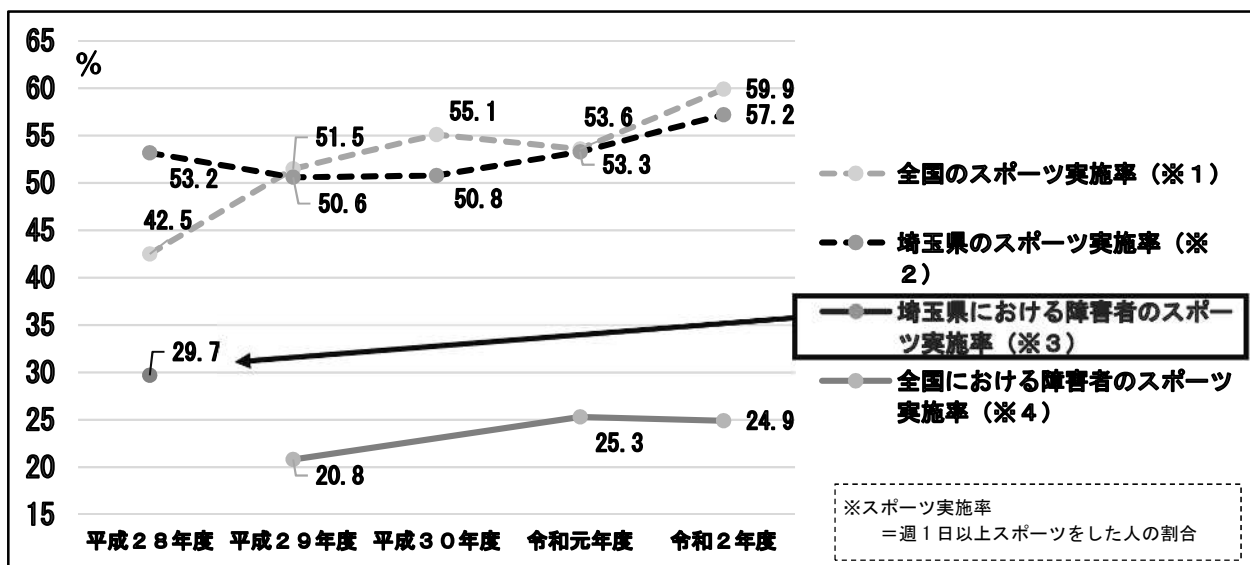
1 現状・課題

埼玉ゆかりのパラリンピック選手数



※ 埼玉ゆかりの選手：出身、現住所、練習拠点等が埼玉県 of 選手

障害者のスポーツ実施率の推移



- 【出典】※1 スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(毎年実施)による成人の調査結果
 ※2 埼玉県「県政世論調査」(毎年実施)による18歳以上の調査結果
 ※3 埼玉県「スポーツに関する県民意識・実態調査」(5年に1回実施)による障害者の調査結果
 ※4 スポーツ庁「障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究」(H29までは隔年実施、R1以降は毎年実施)による成人の障害者の調査結果

- 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた気運の高まりもあって、スポーツ実施率は上昇傾向にあるが、障害者のスポーツ実施率は一般のスポーツ実施率に比べて依然として低い。

2 埼玉県障害者支援計画

(1) 第5期計画（H30～R2）

Ⅱ 地域生活を充実し、社会参加を支援する

5 社会参加の支援

(3) スポーツ・文化活動の振興

- ・ 障がい者スポーツ指導員の充実等
- ・ 障害者スポーツ協会との連携

(4) 東京2020パラリンピック競技大会を契機とした支援

- ・ 各種スポーツ大会の開催、各種スポーツ大会への派遣支援、東京2020パラリンピックに向けた選手育成・強化
- ・ パラリンピック開催の気運醸成、障害者アスリート応援の気運醸成

(2) 第6期計画（R3～R5）

Ⅱ 地域生活を充実し、社会参加を支援する

5 社会参加の支援

(4) 東京2020パラリンピック競技大会を契機とした障害者スポーツの振興

- ・ 各種スポーツ大会の開催
- ・ 障がい者スポーツ指導員の充実と大会等に参加できる環境づくり
- ・ パラリンピック等に向けた選手育成・強化、競技団体の基盤強化支援
- ・ パラリンピックにより醸成される障害者スポーツと障害者に対する理解促進
- ・ 障害のある方ない方が一緒に楽しむイベントを開催し、障害者スポーツを通じた共生社会の実現

3 県の取組

(1) 埼玉ゆかりのパラアスリートの支援

ア 埼玉パラドリームアスリート事業

平成30年度からパラリンピックで活躍が期待される選手を「埼玉パラドリームアスリート」と認定し、遠征費用やトレーニング費用を支援するなどにより競技力の育成強化を図っている。



埼玉パラドリームアスリート認定選手数	H30年度	R1年度	R2年度
	25人	25人	20人

イ 全国障害者スポーツ大会への県代表派遣

全国レベルの障害者スポーツ大会に参加することを通じて本県の障害者スポーツの競技レベルの向上と障害者スポーツの振興を図っている。

また、障害や障害者に対する県民の理解を深めている。

埼玉県代表選手数	R30年度	R1年度	R2年度
	74人	中止	中止

※ R1は台風の影響により中止、R2はコロナの影響により中止

(2) 障害者スポーツの普及

ア 彩の国ふれあいピックの開催

全県的な障害者スポーツ大会開催により、一層の障害者スポーツの普及を図るとともに、障害及び障害者に対する県民の理解を深める。

また、スポーツを通じて障害者の体力維持、増進を図るとともに、障害者の社会参加推進に役立てている。



秋季大会 4面卓球体験

参加選手数	H30年度	R1年度	R2年度
春季大会	982人	1,008人	中止
秋季大会	中止	800人	中止
球技大会	1,589人	1,350人	514人

イ 小中学校・高校・大学における障害者スポーツ体験の実施

障害者への理解促進を進めるためには、若い世代からの働きかけが効果的であることから、小中学校、高校及び大学において、体験会等を行っている。埼玉ゆかりのパラアスリートや競技団体などに講師を派遣し、講演や実際の競技体験等を組み合わせて実施している。



小学生の車いすバスケット体験

実施学校数	H30年度	R1年度	R2年度
	18校	17校	18校

ウ 地域で障害者スポーツに取り組む団体への支援

地域で障害者スポーツのすそ野拡大につながる取組を公募し、選定した団体に助成金を支援している。

支援団体数	H30年度	R1年度	R2年度
	10団体	10団体	8団体

エ 障がい者スポーツ指導員の育成

障がい者スポーツ指導員は、障害者スポーツの競技大会やイベントで指導助言を行うなど、障害者スポーツの普及に重要な役割を果たしている。

障害者スポーツの裾野を広げていくため、指導員の養成講習会を実施し指導員の育成を図っている。

指導員養成講習会	H30年度	R1年度	R2年度
修了者数	68人	65人	中止

(3) 共生社会への意識醸成

ア 県ボッチャ大会の開催

障害のある方とない方が一緒に楽しめるボッチャを通じて、ふれあい、交流を図ることで共生社会の実現に寄与することを目的に令和元年度から開催している。



第1回ボッチャ大会

	R 1 年度	R 2 年度
参加者数	1 2 6 人 (障害あり 48 人) (障害なし 78 人)	中止

イ 県民生活部スポーツ局との連携

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催に向けた県民意識の醸成や、埼玉ゆかりのパラリンピック選手に対する県民による応援など連携を図った。



1年前イベントにおける
村岡桃佳選手のトークショー